

片側3車線をひっきりなしに車が行き交う国道2号沿い。岡山県早島町にスーパーやコンビニ、外食チェーン向けの食品輸送の拠点となる低温倉庫がある。広島市に本社を置く運輸業、河野の岡山営業所（同町早島）だ。

5月のある日、到着したトラックに積まれた商品が、氷点下25度の冷凍室へ手際よく搬入されていた。フォークリフトを自在に操る男性(41)は岡山営業所が2018年に初めて障害者として雇

った。「荷物の積み込みも担うドライバーの作業負担を軽減したいと考えたのが採用のきっかけ」と営業所長の小原秀俊さん(54)。本社が広島のため知名度が低く採用に苦戦する中、少しでも力になってくれればとハローワークに障害者の求人を出した。

この男性には精神障害があり、「入社前の数年はひきこもりの生活だった」と言う。だが、1日数時間のパート従業員として採用されると、周囲が感心するほど働いた。徐々に勤務時間を延ばし、商品の管理や仕分けと担える作業も増えた。3年後に正社員に登用され、今春からは班長を任されている。

「仕事熱心で同僚からの信頼も厚い。彼は今や現場になくてはならない」。小原さんは男性の存在についてこう言い切る。

企業の人手不足に加え、国による法定雇用率の段階的な引き上げ

## 第5部 ダイバーシティ

# 岡山「2.0」

人口減少の先に

# 現場に欠かせぬ存在

### ⑨ 働く障害者

もあり、働く障害者は増加が続く。

厚生労働省のまとめでは、25年6月1日時点で全国の民間企業が雇用する障害者は70万4600人と、22年連続で過去最高を更新。法定雇用率は7月から2・7%（現在は2・5%）とされ、今後も企業の障害者に対する採用意欲の高まりが見込まれる。

一方、同じ時点で法定雇用率を達成できていない企業は54・0%に上る。さらに未達成企業の6割近くは障害者の雇用がゼロだ。

河野の岡山営業所はその後も採用を増やし、現在は従業員約70人のうち1割近い6人になった。そんな岡山営業所でも「最

労継続支援A型事業所「たからさ

初」の男性が入る前は、社員から「一緒に働けるのか」との不安が聞かれた」と小原さん。全員を集めたミーティングを開いて障害者の特性を共有したり、実際に一緒に働いたりするうち徐々に理解が広がったという。

福祉の視点から、より幅広い受け皿を整えている企業もある。リサイクル業の平林金属（岡山市北区下中野）だ。

約10年前から障害者雇用で力を入れてきた同社だが、障害が重く働ける日数や時間が限られるために一般就労の形では採用が難しいケースもあった。そこで22年、働

きながら技能を身に付けられる就労継続支援A型事業所「たからさ

がし」を工場内に開設。現在は約30人の障害者が主に工場での金属類の分別に従事し、平林金属の業務効率化につながっている。「働く経験を通じ、社会に出ていくための自信を培ってもらいたい」とA型事業所の副管理者、芳竹元紀さん(32)は言う。福祉系の大学で学び、平林金属の障害者雇用に対する姿勢に共感して16年に入社。24年に今の職場に転籍し、障害者の技術指導や送迎、請負業務を探る営業に走り回る日々だ。そうした努力が実り、一般就労に移行できた障害者もいる。

「障害の特性に応じた指導や訓練によって彼らの技術を高め、将来への可能性を広げる。それが自分のやりがい」と芳竹さん。企業に必要とされ、収入を得て自立する障害者をもっと増やしたいと考えている。（内田光祐）



河野岡山営業所でフォークリフトを運転する障害のある男性（上）、たからさがして技術指導する芳竹さん（下写真右）のカラーージュ（中西弘之撮影）